

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月4日  
函館市立あさひ小学校

## 1 本年度の重点教育目標

・ひとりのできる みんなとできる 明日に向かって 学びをつなぐ

## 2 本年度の取組の重点

・社会に開かれた教育課程の実現に向け、コミュニティ・スクール（青柳ネット）による協働体制の下、本校の教職員の協働意識を高め、グランドデザインに基づいた学校運営とカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		概況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力を育む教育の推進	・めあて・まとめ・振り返りを1単位時間の学習過程に位置付けるとともに、1人1台端末等 ICT を効果的に活用し、学習内容の定着を図ることができたか。	b	・全学年において「めあて・まとめ・振り返り」の学習過程を定着させ、1人1台端末を効果的に活用した。学習内容の定着や定着度の確認には、個人差が見られるため、単なる感想で終わらず、めあてに対する到達度を自己評価し、次時の問いにつながる記述の型を共通化していく。	A	A	・記述でも良いが、低学年ではチェックリストと5段階評価などの使用も有効ではないか。 ・端末活用は次のフェーズに入ったので研修が必要だと思えます。
	・学習規律や教室環境整備等について、ユニバーサルデザインの視点で改善することにより、児童の安心・安全な学びや授業改善の充実を図ることができたか。	a	・「指示の簡潔化」「視覚支援」など、どの教室でも安心できる支援と失敗を許容する学級風土づくりを今後も徹底していく。	A	A	
② 豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	a	・積極的にいじめを認知する中で、道徳科を中心に授業改善に取り組み、自らを見つめ直し、子供が多面的に考え、よりよく人と関わる力の育成を図る。	A	A	・思いやりのある子供たちの育ちを感じることが出来ます。 ・校長先生はじめ、先生たちが登校してくる児童と挨拶を交わし、その日の様子の把握に努めていると思えます。
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共心、社会性を育むことができたか。	a	・挨拶の励行を基に、友達との協働的な学習など人との関わりを通してよりよい人間関係を築こうとする意識の向上を図る。	A	A	・さりげなく、爽やかに挨拶してくれるお子さんが多いです。
③ 健やかな体を育む教育の推進	・体育科や休み時間の運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わわせることができたか。	b	・体育科の授業で、多様な運動を取り入れ、「体を動かす楽しさ」を味わわせる指導を展開したり休み時間の外遊びを推奨したりした。運動能力や体力レベルによる二極化も見られるため、個々のレベルに応じた体験を意図的に設定していく。	A	A	・個々のレベルに応じた対応は大事と思案する。
	・家庭と連携した食に関する指導、食育だより、保健指導、保健だより、外部講師による授業等を通して健康への関心・意欲を育むことができたか。	a	・家庭科や給食指導、保健指導において、通信と連動させた指導を展開し、児童の健康への関心・意欲の向上に努めた。また、外部講師による専門的な授業は、児童にとって効果的な学びとなった。	A	A	・外部リソースの活用、良い効果ができています。
④ 学校における指導体制等の充実	・「わかる」「できる」授業を進めるために、専科・教科担任の指導、支援員等の活用の工夫を図ることができたか。	a	・高学年を中心とした教科担任制や専科指導の導入により、教師の教材研究が深化し、より専門性の高い「わかる・できる」授業を展開できた。また、支援員を効果的に配置することで、習熟度に応じた個別支援を行い、児童の満足度が高まった。	A	A	・教科担任制の効果として「専門家のいる学校」というブランドになればと思います。
	・グランドデザインをもとに、学校における業務改善に向けた取組を進め、教員の資質能力の向上と子供と向き合う時間の確保を進めることができたか。	a	・校務のデジタル化や行事の見直しを進め、教務研究や児童との対話を充実させた。今後もICT活用を一層進め、校務負担の更なる軽減と教育の質の向上を両立させていく。	A	A	
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	・青柳ネット(コミュニティ・スクール)の取組を通し、家庭・地域が一体となった学校運営の推進・充実を図ることができたか。	a	・青柳ネットを核として、地域住民や保護者が学校運営に参画する体制が定着し、地域資源を活用した体験活動や登下校の見守り活動などが円滑に実施され、家庭・地域が一体となった支援が行われた。	A	A	・PTAの方々や登校時の見守りを熱心にされていて素晴らしい連携だと思えます。 ・保護者による授業補助を推進していければと思う。
	・家庭・地域・学校が目指す子供像や重点教育目標・学校運営の基本方針を共有することができたか。	a	・学校運営連絡協議会や懇談会、学校通信等を通じて、目指す子供像や重点目標の周知に努めた。学校評価アンケートの結果を地域・家庭と共有し、今後も目標達成に向けた当事者意識の醸成を図っていく。	A	A	

### ■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

### ■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正が必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

